

# 新しい人間関係づくり支援

新しい取り組み紹介  
次の手

「介護」「健康」「趣味」をキーワードに、東京と大阪で異業種交流会を開催している「活き活き倶楽部」。CSねっと企画合同会社（大阪府寝屋川市）の長嶺堅二郎代表を中心に運営され、新しい人間関係づくりとビジネスチャンス拡大を支援する。

網谷 長嶺さんは、松下電工（現パナソニック）入社後、営業部長などを歴任し、同社エレクトロニクス事業で、大阪府下初の介護専用型有料老人ホーム「エレクトロ・ライフ大和田/星が丘」の運営に携わっていましたね。異業種交流会を発足したきっかけを教えてください。

長嶺 松下電工の営業時代に「飛び込み営業」で企業を回っていました。その時知り合った人に、異業種交流会に誘ってもらい、いろいろ紹介してもらったことで自分だけでは開拓できなかったであろうルート開拓に成功しました。このように新しい出会い、新しい組み合わせで、その人や会社がいい方向に向かうサポートをしたいと思い、2009年より「活き活き倶楽部」をスタートしました。

網谷 「活き活き倶楽部」は東京と関西の2カ所で開催しているそうですが、どのような会なのか教えてください。

長嶺 東京、関西ともに3

4カ月に1度開催しています。入会費、年会費はなく、会費の飲食代のみです。東京の会員が158名、関西の会員が180名です。関西はシニアになっても元気に活動的でいられるように、介護、健康、趣味をキーワードに、お役立ちセミナーと参加者全員の自己紹介・PRを行っています。メンバーにはプロフィールを作ってもらい、自己紹介の時にスクリーンに投影するのが慣わしになっています。

網谷 「趣味」というキーワードはおもしろいですね。

長嶺 自己紹介するにも時間

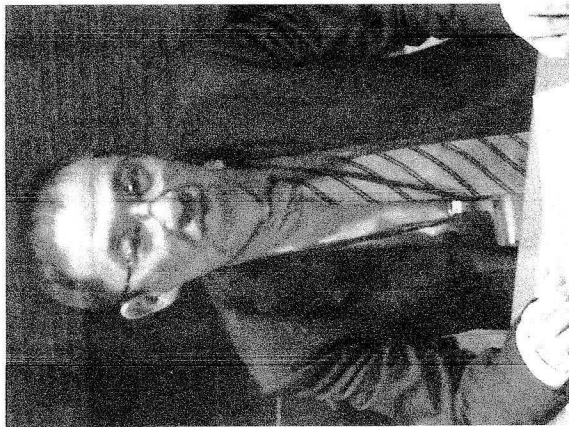


CSねっとと企画合同会社  
長嶺堅二郎代表

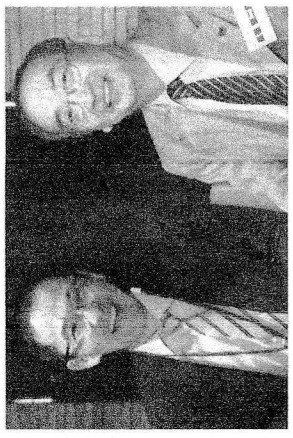
は限られますし、このような交流会でもして仕事以外の自分のことを話す機会もあまりありません。学歴・職歴などの内資だけではなく、趣味や座右の銘などを共有することで、出身地が一緒だったとか、同じ学校だったとか、誕生日が一緒だったとかのきっかけになります。

会の参加者は、高齢者及び介護業界で活動、活躍している人ばかりで、現場スタッフから経営者、運営サポートや商材サービスなど、業界全ての職種・資格者が揃います。どこもそうですが、「業界」は奥が深く完全に万能なスペシャリストにはなりません。しかし、分野ごとの専門家はいます。困りごとが起きても、活き活き倶楽部には様々な専門家がいますので、みんなの問題解決に向かって進むことができます。世代を超え、業種を超えてサポートし合うことが重要ですが、相手のことが分かっていないと、話は前に進みません。自分の器だけでは視野が狭くなってしまいます。

網谷 「井の中の蛙」にならないといけないということですね。仕事内容だけでなく「人」を知ることで、趣味仲間やど



高齢者住宅新聞社  
網谷敏数社長



▲対談を終えて

ビジネス拡大のきっかけ作りの場ともなるわけですね。

長嶺 企業を離れると、人のつながりや、設備・資金・情報などが減少します。特にシニアは、職縁、社縁が切れる事で、新しい縁づくりが必要になります。また、若い人たちへ様々なことを伝える責任もあると思います。シニアは経験や実績を生かして若い人に伝授する。若者はパワーや新しい発想で、シニアを刺激するというのが好ましいのではないのでしょうか。

網谷 若い世代からパワーをもらい、先輩方から知識を学ぶ好循環ですね。人となりがわかっていると、より具体的な話ができていきますね。

長嶺 今年4月に、このきっかけで「生活空間まるごと快適化委員会」（通称：デコロベリ）という商品開発のクラウド企画がスタートしました。在宅介護生活を無理なく楽しく、穏やかにしたいという想いで、アイデアを持つ企業が集まり結成したもので、「おうち介護ライフ」をデザインする専門家集団です。

今後様々な分野で「連携」が進んでいくと思いますが、人々を繋ぐ「ハブ」としての役割を極めたいです。